

平成30年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成30年10月16日（火） 午後2時～午後3時50分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部 客員教授]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
河原 郁子 [とよた下まちおかみさん会 平成30年度会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]
杉山 裕貴 [市民公募]
新田 都子 [高岡地域消費者グループ代表]
元岡 征志 [シー・プロジェクト代表 中小企業診断士／社会福祉士]
脇田 弘久 [愛知学院大学商学部 教授]

〈事務局〉

前田 雄治 [豊田市産業部部長]
早川 正文 [豊田市産業部商工振興室長]
清水 章 [豊田市産業部商業観光課課長]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課副主幹]
吉野 佑美 [豊田市産業部商業観光課担当長]
山崎 雄 [豊田市産業部商業観光課主査]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 産業部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
- 5 その他

【会議録（要約）】

4 議事

（1）小坂発展会活性化計画中間報告

（2）藤岡商工会活性化計画の一部変更について

（1）小坂発展会活性化計画中間報告について説明を行い、委員から意見を聴取した。

【主な質疑応答】

委員

「研修会の実施」、「情報発信事業」の評価が低いが、対策はどうするか。

小坂発展会

高齢の会員もいて、事業効果を伝えるのが難しい。ホームページなどを活用した情報発信が効果的であることを伝えていきたい。

委員

「小坂納涼夏祭り」、「とよた小坂 食べ歩き 飲み歩き」事業は良いと思うので、継続をお願いしたい。「研修会の実施」、「情報発信事業」は、専門の事業者に頼んで進めたらどうか。

委員

若い人は、Instagramの利用者が多いのでInstagramの活用を検討したかどうか。

小坂発展会

SNS等で活用できる写真コンテストの実施を検討したが、SNSに写真を掲載する場合、人物は掲載許可が必要になってしまい、食べ物や風景写真のみとなってしまうため、実施には至らなかった。

委員

若い人と高齢の方では情報の受け取り方が違うため、ターゲットに合わせて、複数の方法で情報発信ができると良い。

委員

飲み歩きイベントを平成29年度は中止にした理由は何か。

小坂発展会

役員の大半が飲食関係以外の事業者であり、事業実施に対する役員間の意見の食い違いがあった。また、マンネリ化やイベントの継続実施による役員の疲れが原因である。

委員

「小坂納涼夏祭り」、「とよた小坂 食べ歩き 飲み歩き」事業は飲食関係が中心で、物販の方は、夏の納涼祭りでクーポンを配って、その場だけでなく、後日利用してもらおうという策を考えると良い。

「研修会の実施」は若い人の育成も兼ねて計画していくと良い。若い世代から声の上がる事業でないと参加者が伸び悩むと思うので、若い人に企画してもらったらどうか。

(2) 藤岡商工会活性化計画の一部変更について説明を行い、委員から意見を聴取した。

委員

中山間地域はどこも厳しく、商工会のみなさんも困っているのではないかと。買い物難民の問題もあるので、商業施設を誘致できるなら望ましいが、具体的なイメージをどうやって積み上げていくかが課題。ハードルは高いが、とにかくこれからみんなで知恵を出していくことが必要。

委員

スーパーを誘致したとして、そこにどれだけ人が集まるのか、店を続けることができるのかが課題。地域住民にとっても既存の商業者にとってもよりよい環境になると良い。

委員

スーパーが出来るとどうしても既存の店舗がさびれてしまうので、地域の方がみんな集まって作るような商業施設になると良い。スーパーを誘致するのが望ましいということであるが、既存の店舗との共存は難しいのではないかと。

藤岡商工会

支所がある飯野地区は既存の商業者も会員では2店ほどしかない。人が集まるような場所を作り、人が集まることによって地域が活性化すれば創業者等も見込める。

委員

あまり大きい店舗である必要はないと思う。地域にあった規模の店舗の方が消費者としても利用しやすい。小規模の店舗が多く存在する方が使い勝手が良い。

委員

地域の様子を想像するに、スーパーが求められているのは分かる。ただし、計画の実現可能性としてはハードルが高い。他地域の事例でも、同様に新店を出したものの撤退してしまったという事例が多い。課題を解決するのは難しいが、乗り越えられるように頑張ってもらいたい。

委員

地元の人が野菜を売れるような場所で、車の通り客を拾えるような仕掛けがあると良い。地元の人が商品を持ち寄ってお店が出来るといったスタイルが良いのではないかと。藤岡地区の人口等を考慮しても成り立つような業態が良い。

委員

周辺にない機能としてスーパーが必要ということであるが、事業性は難しいように思われる。既存の商業機能の維持とのあわせ事業展開を実施できるとよい。

委員

資料で4点挙げられている課題については、平成29年の2月に活性化計画を策定した際に挙げられているが、なぜ今再び掲げているのか。また、詳細なシミュレーションはされているのか。

藤岡商工会

以前から地域の課題にあがっていることであるが、アンケートを実施し、数字で裏付けをとることができた。詳細なシミュレーションはまだしていないが、こういった事業を展開していきたいという希望である。
来年度の藤岡支所の建て替えを機に飯野地区を活性化させていきたい。

委員

既存の商業施設と新たに出店される商業施設とが連携できるかが事業採算性を考えても重要である。地域経済全体の発展が目的である商工会としても出店を望む商業施設であるか確認した上で、事業を進めていただきたい。

以上